



伝統工芸の職人

手から手へ受け継がれる技



この教材の使い方

1

見て・ふれて・感じる

写真や実物、動画でも確かめてみましょう。身近な行事や食べ物の中にも、日本文化はたくさんあります。

2

「なぜ？」を考える

行事やしきたりには、それぞれ意味や願いがこめられています。由来を知ると、ぐっと面白くなります。

3

「やってみよう」で体験する

答えは30ページにあります。家族や地域の人に話を聞くのもおすすめです。地域によるちがいも楽しみましょう。



Ken (ケン)

日本の中学生。地元のお祭りが大好き。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。日本文化を勉強中。

もくじ

職人の世界	3～4
職人の日々	5～7
工芸を支えるもの	8～9
職人が向き合う課題	10～11
広がる工芸	12～13
職人に会う	14
職人の心	15
確かめよう	16～19
くらべる・疑問	20～22
おさらい	23～25
つたえる	26～28
まとめ	29～30

職人ってなに？

職人という仕事について知しましょう。

職人とは、長い年月をかけて技をみがき、手や道具を使ってものをつくる人のことです。

焼き物、染め物、木工、金属加工など、日本各地にさまざまな分野の職人がいます。



職人

しょくにん／shokunin

手や道具を使い、ものをつくる技をもつ人

工房

こうぼう／kobo

職人がものをつくる作業場

ポイント

- 職人の技は、一朝一夕には身につかず、長い修業を通じて育まれてきました。

やってみよう

- 身のまわりにある、職人が作ったと思うものを1つ書いてみよう。

書いて覚えよう

伝統的工芸品とはどんなものを学びます。

焼き物、漆器、織物、和紙など、種類はとても豊富です。



金属工艺

地域ごとに、その土地ならではの工芸品が育まれてきました。

1. 自分の住む地域に伝統的工芸品があるか、調べてみよう。

- 職人の一日は、道具の手入れから始まることが多く、作業の準備にも時間をかけます。
- 同じ作業を何度もくり返しなが、少しずつ完成に近づけていきます。
- 使う道具は、自分の手に合わせて調整したり、修理しながら長く使い続けたりすることが多いです。



職人さんの道具って、何十年も使っているものもあるんだって。

Emma

道具も、職人さんの仕事の一部みたいだね。



1. 自分の道具（文房具など）を大切に使っているか、ふり返ってみよう。

5

修業と弟子入り・技の受け継ぎ方

職人の技がどのように受け継がれるのかを学びます。

ポイント

- 多くの職人は、師匠のもとに**弟子入り**し、何年もかけて技を身につけます。
- はじめは道具の準備や下働きから始め、少しずつ本格的な作業を任されていくことが多いです。
- 技は、ことばで教わるだけでなく、師匠の手の動きを見て、くり返し練習しながら身につけていきます。

やってみよう

1. 何年もかけて身につけたい技や技術はありますか。

書いて覚えよう

機械にはない、手仕事のよさを考えます。

- 手仕事には、同じ形でも1つひとつにわずかなちがいが生まれ、それが味わいになることがあります。
- 使う人や場面に合わせて、細かく調整できるのも手仕事の強みです。
- 機械による大量生産と、手仕事による一点ものは、それぞれに良さがあります。

1. 手作りのものと、機械で作られたもののちがいを1つ考えてみよう。

工芸品を支える素材や仕事の分担を学びます。

8

てがおぼえる

くり返し練習して、体で技を身につけること

いちにんまえ

ひとりで仕事ができるようになった状態

- 職人の世界には、その仕事ならではの、独特のことばや言いまわしがあります。

1. 「手が覚える」ような練習を、自分もしたことがありますか。

職人の悩み・後継者の問題

職人が向き合っている悩みや課題を学びます。

ポイント

- 工芸品を作る人が減り、技を受け継ぐ**後継者**が少ないことが、多くの産地で課題になっています。
- 手間のかかる手仕事は、時間や費用がかかり、続けていくのが難しい場合もあります。
- こうした課題に向き合いながら、技を未来につなげようとする取り組みも各地で行われています。

やってみよう

1. 伝統の技を残すために、自分にできそうなことを考えてみよう。

書いて覚えよう

新しく工芸の世界に加わる人たちについて学びます。

海外で活躍する工芸

日本の工芸が、海外でどう受け止められているかを学びます。

日本の工芸品は、その細やかな技術や美しさから、海外でも高く評価されることがあります。

海外の展示会に出品したり、海外の職人と交流したりする日本の職人もいます。



ポイント

- 海外の人の視点から、あらためて日本の工芸のよさに気づくこともあります。

やってみよう

1. 海外の人に紹介したい日本の工芸品を1つ考えてみよう。

書いて覚えよう

実際に職人の仕事にふれる方法を学びます。

職人へのインタビュー動画

見学できる工房もありますが、事前に確認や予約が必要なことが多いです。

- 実際に道具や作業の様子を見ると、技のすごさをより実感できます。

1. 職人に聞いてみたい質問を1つ考えてみよう。

- 使う人のことを思いながら、1つひとつていねいに作り上げる姿勢が、多くの職人に共通しています。
- 完成した品物には、長い修業と積み重ねてきた工夫がこめられています。

1. 職人の心について、印象に残ったことを書こう。

写真や実物を見てみよう

工芸品を、写真や実物で確かめましょう。

見てみよう

工芸品の写真集

博物館・資料館の展示

職人の仕事の映像

家にある工芸品

実物を見ると、写真だけではわからない質感や重みに気づけます。

ポイント

- 家にある古い器や道具も、立派な工芸品の資料になることがあります。

やってみよう

1. 家にある工芸品を1つさがして、気づいたことを書こう。

書いて覚えよう

体験してみよう

工芸の技を、実際に体験してみましょう。

やってみよう

粘土で形をつくる

紙を折る・すく

布や糸を使った手芸

木を使った工作

刃物や熱を使う作業は、大人といっしょに安全に行いましょう。

ポイント

- 実際に手を動かすと、思うようにいかない難しさに気づくこともあります。

やってみよう

- この中から1つえらんで体験し、気づいたことを書こう。

書いて覚えよう

地域によるちがい

工芸品は、地域によって特色がちがいます。

ポイント

- 使う素材や技法は、その土地でとれるものや気候に合わせて発展してきました。
- 「日本の工芸品はすべて同じ」と決めつけず、地域ごとの特色を楽しみましょう。
- アイスの人々の木彫りなど、地域独自の工芸も大切にされています。

やってみよう

1. 自分の地域に伝わる工芸を1つ調べてみよう。

書いて覚えよう

昔と今をくらべよう

職人の世界は、時代とともに変わってきました。

普

以前の職人の世界

長い年月の弟子入り

師匠の家に住みこむことも

地元で完結する分業

地域内で工程を分担

今

今の職人の世界

学校などで学ぶ道も

修業のしかたも多様に

海外との取引も

工芸品が世界へ広がる

ポイント

- 形は変わっても、技をみがき続ける姿勢は今も受け継がれています。

やってみよう

1. 職人の世界で、昔と今で変わったと思うことを書こう。

書いて覚えよう

よくある疑問

職人や工芸について、よくある疑問を確認しましょう。

よくある疑問

Q. 職人になるには、学校に行く必要がありますか？

A. 弟子入りして学ぶ道も、専門の学校で学ぶ道もあります。どちらの道もあります。

Q. 工芸品は高いものばかりですか？

A. 手間や技術によって価格はさまざまで、身近な価格のものもあります。

ポイント

- わからないことは、そのままにせず、本や詳しい人に聞いてみましょう。

やってみよう

1. 職人や工芸について疑問に思うことを1つ書こう。

書いて覚えよう

- 工房を見学するときは、道具や作品にかつてにさわらないようにしましょう。
- 作業中の職人には、話しかけるタイミングに気をつけましょう。
- 写真撮影は、してよい場所かを必ず確認しましょう。

1. 工房を見学するとき、気をつけたいことを1つ書こう。

22

用語をおさらい

この教材に出てきたことばを確認しよう。

職人のことば

☐ 職人

ものをつくる技をもつ人

☐ 工房

ものをつくる作業場

☐ 弟子入り

師匠のもとで技を学ぶこと

工芸のことば

☐ 伝統的工芸品

国が認めた伝統の工芸品

☐ 分業

工程を分担してつくること

☐ 後継者

技を受け継ぐ次の世代の人

ワンポイント 覚えたことばに✓をつけよう。ことばを知ると、工芸品がもっと身近に感じられます。

書いて覚えよう

書いて覚えよう

家族や友だちに話してみよう

学んだ職人の世界を、自分のことばで伝えてみよう。

伝えたい話題

由来や意味

自分が感じたこと

相手に聞いてみたいこと

Ken の例

伝えたい話題 弟子入りと修業／由来や意味 師匠の技を見て体で覚えること／自分が感じたこと 何年もかけて技を身につけるすごさに驚いた／聞いてみたいこと 他の国にも似た修業の文化があるか

ポイント

- 聞いてもらう相手に合わせて、ことばを選んでみましょう。

書いて覚えよう

英語で紹介してみよう

伝統工芸の職人を、短い英語でも紹介できるようにしよう。

職人

craftsperson

手や道具を使い、ものをつくる技をもつ人

伝統的工芸品

traditional craft

国が認めた伝統の工芸品

Emma

「職人」って、英語でどう説明したらいいのかな。



Ken

「長い修業を積んで技をみがいた、ものづくりの人」って伝えるといいと思うよ。

ポイント

- すべてを直訳しようとせず、意味を簡単なことばで伝えることが大切です。

やってみよう

1. 紹介したい工芸品を1つ選び、短い英語で説明してみよう。

書いて覚えよう

もっと知りたい人へ

職人と工芸の世界は、ここからどんどん広がります。

調べる方法

図書館で
工芸の本を借りる

博物館へ
工芸品の展示を見に行く

動画で
職人の作業風景を見る

次に学びたいテーマ

着物と和の装い
布や染めの工芸

和食器
焼き物の文化

和紙
紙づくりの伝統

ポイント

- 職人の世界を知ると、他の工芸文化もより深く理解できます。

書いて覚えよう

家にある**工芸品**を1つ探す

手作業でものをつくってみる

職人の技について**友だちや家族に紹介**
する

L28 職人→イ 工房→ウ 弟子入り→エ 分業→オ 後継者→ア 2. 正しい / まちがい

L33 (例) 職人とは、長い修業を通じて技をみがき、心をこめてものをつくる人。

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。